



三島村との連携協定に基づく発掘調査

地域連携事業



国際文化学科の中園聡教授(考古学)とゼミの学部生・大学院生らが、鹿兒島県三島村の黒島にある大里遺跡を調査しました。これは「三島村・鬼界カルデラジオパーク事業」の一環として実施したもので、同村との連携協定に基づく委託事業です。

9月から11月まで断続的に発掘調査を実施。列島各地の遺物のほか、中国産の珍しい瓦や陶磁器、朝鮮半島産とみられる陶器など12世紀前後の貴重な外来遺物が出土しました。

この調査は3D計測を駆使した先端的な調査技術を用いており、考古学関係者の注目を集めています。

住民向けの現地説明会では、VR(バーチャルリアリティ)による遺跡の観察体験も行い好評でした。その様子を日本情報考古学会で発表しました。

「真剣勝負の発掘調査と、調査に熱い視線を送る島の方々との交流によって、学生の成長を実感する」と中園教授は目を細めます。今後、大学での整理作業と研究を通じて、中世の外来文化の「南の窓口」である同地域の解明を進めます。



ふるさと水土里の探検隊事業に参加！

地域連携事業

11月4日、経済学部経営学科の西ゼミ(担当：西宏樹准教授)が「ふるさと水土里の探検隊事業」に参加しました。この事業は、本学が県庁・市役所・土地改良事業団体連合会等と連携し、対象とする地域の活性化に向け、街の現状や課題を共有することを目的に毎年行っている伝統的なものです。

今回は、日置市の吉利地区で開催され、ゼミ生らが街歩きに参加。この街歩きでは、参加者が3コース(北区コース・中区コース・南区コース)に分かれて歩き、地元住民とコミュニケーションをとりながら各コースの現状や課題を確認しました。次回は、その活動成果と学内での考察をもとに、ゼミ生らが同地区の活性化策を発表する予定です。

担当教員の西准教授は「吉利地区は、NHK大河ドラマ『篤姫』で知名度を非常に高めたところ。"せっぺとべ"と呼ばれる伝統的な田植祭が継承されているところでもある。今後は、こうした地域の魅力を活かした活性化策について、ゼミ生と共にマーケティングの視点から考えていきたい」と述べています。



共にマーケティングの視点から考えていきたい」と述べています。

南九州市小京都 ふるさと祭で演奏

音楽学科

音楽学科 6名の学生が本学の連携先である南九州市からの依頼を受け、11月3日に知覧平和公園での「第28回南九州市小京都ふるさと祭」にて演奏を行いました。



チューバとユーフォニアムによるバリチューバアンサンブルと、サクソフォン・デュオのふたつのグループで出演しました。

演奏の合間には、演奏楽曲や使用楽器、そして珍しい「バリチューバアンサンブル」という形態などについて、観客に説明を行いました。会場に集まった大勢の観客は、知っている曲が流れると一緒に歌ったり、手拍子をしたりして楽しんでおり、音楽を通して演奏者と会場の一体感を作り上げることができました。



学生によるアウトリーチ活動が地域に根差し、鹿児島県の音楽文化を若い力で盛り上げていくことを期待します。

高齢者の安全対策 委員会に参加

地域連携事業

私たち岩崎ゼミ生は、6月12日「鹿児島市高齢者の安全対策委員会」に学生オブザーバーとして参加しました。

委員会では、交通安全分野と連携した交通安全教室等の取り組みや高齢者の不慮の事故による死亡原因で多い窒息へ対応するため、口腔機能低下予防教室の実施など今年度の推進計画やセーフコミュニティの活動報告、課題の振り返りがなされました。報告や意見交換を聞きながら、行政と地域住民の連携が取れていることや、地域の課題に早急に対応する仕組みができていることを学びました。私たちからは「地域の学校や子どもたちと連携することで、さらに地域活動や地域力の向上につながるのではないか」と提案させていただきました。

今回、委員会に参加し、地域住民と各団体や行政との協働体制や地域力の重要性について考える機会になりました。
(社会福祉学科4年
川崎凌大・木場未優・玉利元樹)



農業高校生と大学生の共同による 六次産業化人材育成ワークショップ

経営学科 中西ゼミ

六次産業化の発展に貢献する人材の育成を目的として、中西ゼミの2年生と県立市来農芸高校の生徒が共同で「市来農芸高校の農作物とカミチクホールディングスのホエイ（乳清）を使った農業のイメージを覆す夏のスイーツ」をテーマに商品開発を行いました。

4月15日に市来農芸高校で行った「アイデア出し講習会」を皮切りに、中西ゼミの学生と同校生徒の混成7チームがそれぞれ商品案を検討し、6月18日に「よかど鹿児島」で開催された「商品案審査会」に臨みました。その結果、甘夏と市来農芸高校のイチゴを使ったクラッシュ「ニュー甘夏ベリー」が選ばれました。7月18日の学内販売会や7月22日の「第3回みんなの高校生フェスタ」でも非常に好評で、たくさん売れました。



カンパチの養殖見学

児童学科 脇ゼミ

11月30日、児童学科の脇ゼミ3年生11名は、小学校社会科の教材化に役立てることを目的に、鹿児島県の特産品であるカンパチの生産量日本一を誇る垂水市漁業協同組合を訪問しました。

カンパチ養殖に関する説明や特徴的な施設等（出荷場、加工場、冷凍庫）を見学後、いけすの設置場所まで船で案内していただき、安心・安全に美味しさを追求しているカンパチ生産の様子を直接調査しました。

参加したゼミ生たちからは「今回の見学を通して、私たちが普段何気なく食べているカンパチが、一貫した生産過程の中で飼育環境保全、品質管理、トレーサビリティ（追跡可能性）など様々な工夫・努力を通していいことがよくわかった。教材化に是非活かしていきたい」という感想が聞かれました。

